

令和7年度 新規調査について

I 魚類相による博多湾のアマモ場等評価

(1) 目的

博多湾、唐津湾、玄界灘のアマモ場の魚類相を把握・比較することにより、博多湾のアマモ場の魚類相の特徴と位置づけを整理し、環境保全創造施策の基礎資料とする。

(2) 内容

①アマモ場等魚類相調査

- ・調査地点：博多湾（能古島、志賀島）、唐津湾（引津、大入）、玄界灘（津屋崎）の各アマモ場
- ・調査期間・回数：6月～9月の各地点月1回
- ・調査方法・とりまとめ

投網によりアマモ場に生息する仔稚魚を採取・同定し、種数、個体数のとりまとめを行う。調査時は塩分、水温、底質粒度を記録し、仔稚魚の種数・個体数とあわせて整理する。



②魚類相による博多湾のアマモ場の評価

①及び既存文献等に基づき、博多湾と他海域のアマモ場の魚類相を比較し、博多湾のアマモ場の特徴を整理するとともに、評価を行う。

③市が実施する環境DNAによる博多湾魚類調査結果に係る考察

市の環境DNAによる博多湾魚類調査結果について、魚類の特性等を踏まえた考察を行う。

④博多湾における仔稚魚の生息空間の創出に向けた提案

①、②及び③等を踏まえ、博多湾における仔稚魚の生息空間の創出に向けた提案を行う。

2 カブトガニ幼生生息場把握等調査

(1) 目的

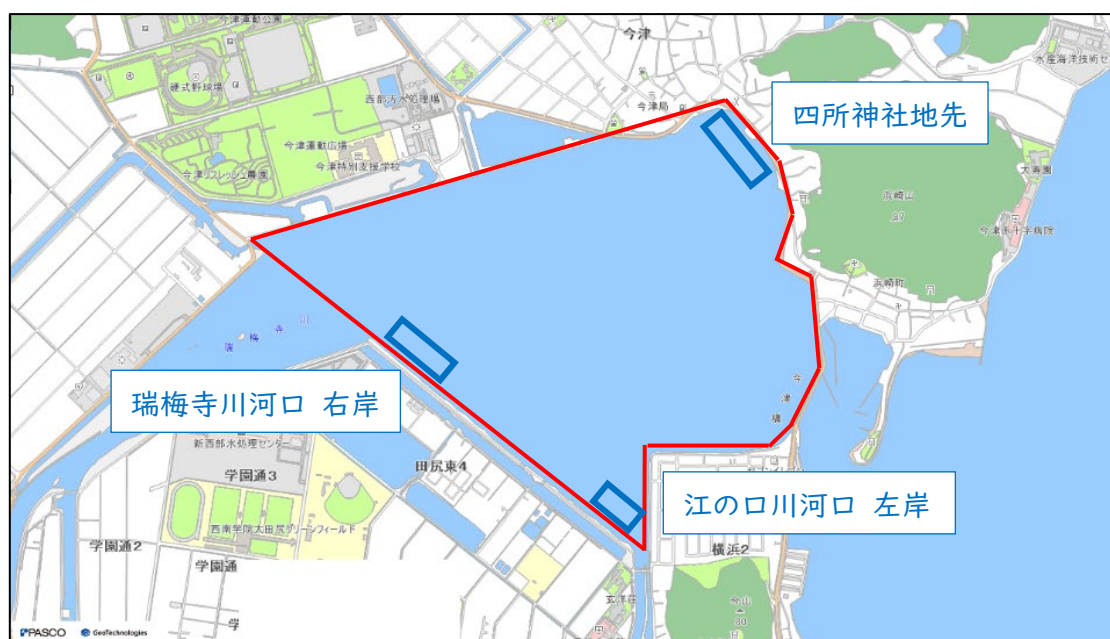
カブトガニ幼生が生息する可能性のある今津干潟の場所の把握を行うとともに、市の幼生調査で幼生の生息が確認された地点の底質及び標高等を調査することで、効果的・効率的なカブトガニ調査及びカブトガニ保全施策を検討する際の基礎資料とする。

(2) 内容

①カブトガニ幼生が生息する可能性のあるエリア整理

- ・調査地点：図に示す赤枠内のエリア（幼生が生息しない零筋等は除く）
- ・調査時期：7月
- ・調査方法・とりまとめ

ドローンで空撮した画像について、公表論文を参考に、カブトガニ幼生が生息する場の標高、傾斜を踏まえ画像処理を行い、カブトガニ幼生が生息する可能性のあるエリアを整理する。



②カブトガニ幼生生息地点の底質等調査

- ・調査地点：今津干潟
- ・調査時期：9月上旬
- ・調査方法

①の結果を踏まえ、市が実施するカブトガニ幼生調査候補箇所を選定する。四所神社地先、瑞梅寺川河口右岸、江の口川河口左岸及び選定した候補箇所におけるカブトガニ幼生調査で幼生が確認された地点の底質調査及び標高・傾斜を測定する。底質調査項目は酸化還元電位（ORP計による現地測定）、泥温（現地測定）、粒度組成、強熱減量とする。

③カブトガニ幼生生息場の推定

①で整理した画像に実際に幼生が確認された地点をプロットするとともに、②の調査結果を踏まえ、カブトガニ幼生の生息条件を整理する。整理した内容を踏まえ、今津干潟におけるカブトガニ幼生生息場を推定する。

3 博多湾の環境状況の把握（試行）

（1）目的

令和6年度第3回博多湾環境保全計画推進委員会で、「漁業者から得られる環境情報は博多湾の環境保全を推進していくうえでとても重要」とのご意見があったことを踏まえ、福岡市漁協伊崎支所のご協力により、博多湾での操業時に環境情報（水質、底質等）を把握・情報提供していただき、市環境局が実施する博多湾環境調査結果と整理し、環境保全施策検討の基礎資料とする。

（2）内容

・実施期間

令和7年6月～令和8年3月の市環境局の博多湾環境調査（常時監視（毎月1回）、貧酸素調査（5月～11月））の調査日を含む1週間程度

・方法

漁業者が操業時に把握した博多湾の状況（赤潮、水質、底質等）や漁獲の状況等について、スマートフォンで市オンラインフォームに投稿。投稿された情報と博多湾環境調査結果を整理。